

あたらしくはいった こどもの本

秋田市立図書館ホームページURL



[https://www.city.akita.lg.jp/](https://www.city.akita.lg.jp/kurashi/shakai-shogai/1008469/index.html)

[kurashi/shakai-shogai/](https://www.city.akita.lg.jp/kurashi/shakai-shogai/1008469/index.html)

[1008469/index.html](https://www.city.akita.lg.jp/kurashi/shakai-shogai/1008469/index.html)

おしらせ

イベント案内



「夏休みは図書館へ行こう

ーみんなの読みたい！知りたい！学びたい！をお手伝いしますー」

①資料展示：7月15日（火）～8月24日（日）※休館日を除く

自由研究や工作に役立つ本を展示・貸出しします。

②子どもカウンター：7月23日（水）～26日（土）、29日（火）、30（水）

午前10時30分～正午 本探しのお手伝いをします。

会場▶1階 児童コーナー

今月のテーマ展示

『きょうりゅう』

●絵本（特集児童4）

●読み物・ノンフィクション

（カウンター展示1）

※1階児童コーナーで

ご覧ください。



えほん



はい はい はい！

こがようこ／作

瑞雲舎

（Eコ）※1歳から

「りんちゃん りんちゃん どこですか？」呼ばれたりんちゃんは、手をあげて「はい！」とお返事。何度も元氣にお返事してくれましたが、最後は自分で顔をかくしてしまい、「あれあれ？りんちゃんが いないいいない」。親子で呼びかけあいながら楽しめる絵本です。



マルクのふしぎなかさ

松本猛／文

たなか鮎子／絵

徳間書店

（Eタ）※3歳から

絵を描くのが好きなローズは、お母さんの誕生日に絵をプレゼントする約束をしています。なかなかうまく描けずに、まだ暗いうちに目を覚ますと、窓辺にふしぎなかさを持った小さな男の子、マルクがやってきました。ふたりは絵に描きたいものを探しに町へ飛び出します。



あかりをひとつもしてみたら

クリスティ・マシソン／文

アヌスカ・アレプス／絵

ふしみみさを／訳 光村教育図書

（Eア）※5歳から

冷たい雨が降る夕方、街の明かりが消えてしまいます。真っ暗な通りを見て、ひどくひとりぼっちな気持ちになったコトリちゃんは、家の前に明かりをともしたランタンを置いてみました。それに元気づけられた人も明かりをともし、だんだんと街が明るくなっていきます…。



だいぶつさま かぜをひく

荻田澄子／文

中川学／絵

アリス館

（Eナ）※5歳から

ある日、『なむなむびょういん』の薬師先生のもとへ狒犬がかけこんできました。「だいぶつさまが たおれたわん！」大仏さまを心配したほとけさまたちが次々と集まってきて、みかんをむいてあげたり、子守唄を歌ったり。大仏さまは元気になるのでしょうか？

低学年向き



いつのまにか友だち
おおぎやなぎちか／作
モカ子／絵
金の星社
(91才)

2年生になって新しい学校に転校したりこ。隣の席のじゅんたくんは、声が大きくてちょっとこわいし、うまく友だちができるか心配です。そんなある日、学校帰りに通った森の道でカラスに追いかけられ、おばあちゃんに作ってもらった大切なお守りをなくしてしまったのです。



奄美の海は
生きものいっぱい
松橋利光／写真
木元侑菜／文
新日本出版社
(46)

2021年に世界自然遺産になった奄美大島は、数多くの生きものがいます。海辺に広がるマングローブの森には、大きなハサミをもつシオマネキや小さな魚たちがすみ、エサを求めて鳥もやってきます。海中には色鮮やかなサンゴ、そして夜の浜辺では、産卵するアカウミガメも見られます。自然豊かな奄美の島を探検してみよう！

中学年向き



なないろのはし
横山佳／作
平澤朋子／絵
BL出版
(913)

空海は自分の気持ちをうまく口に出せない小学4年生の男の子。大好きななみちゃんに桜もちをもらっても自分からお礼を言えません。ある日、お父さんに生まれつき耳の聞こえないおじいちゃんと毎日散歩に行くよう言われます。空海はおじいちゃんと手話で話すうち、思っていることを話せるようになっていきます。



まぼろし色のモンシロチョウ
翅にかくされた進化のなぞ
小原嘉明／文
石森愛彦／絵
福音館書店
(486、8)

日本全国で見られるモンシロチョウは、私たちにとって身近なチョウです。ところが、人には白く見えるはねに、実はとてもふしぎな色がかくされていたことがわかったのです。チョウの進化のなぞをイラストでわかりやすく説明するこの本を読んで、君もモンシロチョウ博士になろう！

高学年以上



日下部くんには日傘が似合う
神戸遥真／作
ぽん豆／絵
あかね書房
(91コ)

登校中、一真は母に持たされた日傘を、両手の上で転がしていました。熱中症予防になることは分かっていますが、周りで使っているのは女子ばかり。すると、道の先に白い日傘を見つけました。白地にフリルと小さなリボンが付いています。おしゃれな女子かと思って顔を見ると、同じクラスの日下部君だったのです。



どうやって美術品を守る？
保存修復の世界をのぞいてみよう
ファビエンヌ・マイヤー、ジビュレ・ヴルフ／作
マルティナ・レイカム／絵
田口かおり／監訳 中村智子／翻訳
創元社 (70)

ある日、美術館の保存修復工房に肖像画が運ばれてきました。その作品は美術館から盗まれた後、発見されて戻ってきたのです。水たまりに落ちて汚れたり、穴が開いたりしてとても傷ついていました。保存修復士たちは、傷ついた美術品の検査を始めます。これからどうやって直していくのでしょうか？